

創業150周年記念増刊号

第60号

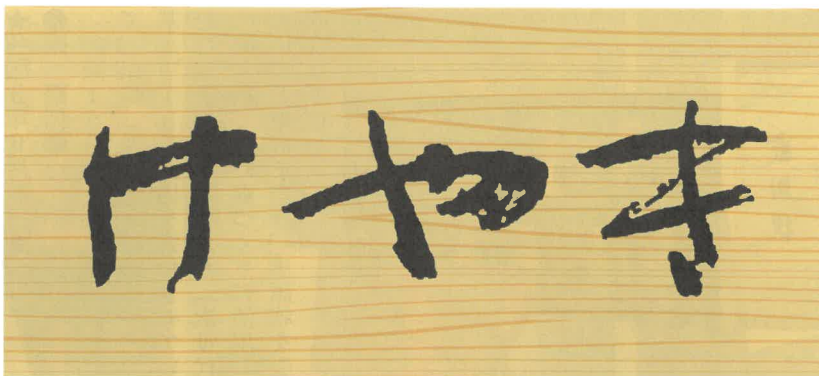
発行者

コイケモクザイグループ
小池木材(株)
小池商事(株)
ラミネート・ラボ(株)
トヤマハウジング(協)

テーマ

木を愛し
木に親しみ
木をもって
社会に貢献しよう

- 誠意
- 情熱
- 工夫



コロナ禍で記念旅行やパーティーなどは中止になりましたが、1月4日に十分なコロナ対策のもとキヤナルサイド ララシヤンスにて、現役・OB社員と合同で創業150周年記念式典を行いました。本頁では小池善樹理事長挨拶、次項より150周年特集を掲載します。



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

400年前にご先祖様が富山に居を構え、150年前に商売を始め、70年前に善三郎・英作の兄弟が木場町に製材工場を建設しました。その当時、この地域には営林署や木材市場等の多くの木材関連施設企業があり、運河(現在の環水公園)には多くの丸太が浮かび、土場には丸太が積み上げられ、この界限は木材で溢れていました。又、小池木材の敷地内で

は、引き込み線から全国の木材が降るされ トロッコの線路が張り巡らされていきました。この地で生まれ育った私は、運河の丸太の上で体感を養い、トロッコでスピードを体感し、チャンバラで筋力をつけました。現在、環境の変化に伴いまるつきり風景も変わり、その当時は彷彿させるのは小池木材の看板ぐらいいしかありませんが、この木場町の地で、創業150周年記念式典を開催できた事を本当に嬉しく思うと同時に大変誇らしく思います。

そしてつくづく思うのは、今日あるのは一人の能力や努力の結果なんかでは決してなく、私達は明治・大正・昭和・平成・令和と多くの人が積み上げてきた土台の上に立っているに過ぎないということ。後ほど会社の歴史を上映しますが、写真をセレクトする際、会社の変遷と数え切れない人々の涙や笑いが垣間見える写真を数千枚見ました。沢山の失敗を繰り返して、試行錯誤し、血を吐くような思いをした先輩方の姿が偲ばれ、私達はそのおかげで今日があるのだと思うと、胸が締め付けられる感覚に襲われました。 **本**



に多くの人が協力し合って創り上げた150年であり、改めて弊社を支えて下さいました皆様により感謝申し上げます。

ここで、先程からこちらを覗んでいらつしやる3人の歴代社長の話をさせて頂きます。私の知る限り聖人君主でもスーパーマンでもなく、どちらかと言えば欠点の方が多かったのではないのでしょうか。頑固でせっかちで、我が儘で、短気で思い込みが激しい等々、数え上げたらきりがありません。しかし、私が逆立ちしても敵わない事が2つあります。それは、**商売に対する情熱と礼節(伝統、暖簾、信用)を重んじる姿勢**です。常に時代を一步先取りする為に日夜努力研鑽され、果敢に挑戦されました。そして、自分さえ利益があれば良いという私利私欲をもっとも嫌われ、感謝や礼儀を大切にされました。昨年の大河ドラマの主人公渋沢栄一が説く、「道徳と経営の一致」を地で行くような方々でした。そんな三人の側にいた私は欠点ばかり似てきて、代々引き継がれてきた小池流哲学の継承者になるには、まだまだ道程は遠いよ

うです。歴史に学ぶ事は沢山ありますが、それを実践出来なければ意味がありません。又、代々積み上げてきた土台を見て「ワァーすごいなあー」だけでは、ピラミッドを見に来た観光客です。ではこの思いに込め、次に繋げていく為に何が必要なのか、常に一步先んじて時代を先取りしていくにはどうしたらよいか。今年の年賀状の文面をそのまま読ませて頂きます。時代の変化の中で、会社を大きく変化させる原動力は、日頃の感謝の気持ちとそれに応えようとする行動力だと思います。「失敗と書いて成長と読む」との名言がありますが、今年も積極的にチャレンジして、一緒にステップアップしていきましょう。

私は企業存続のキープポイントは「感謝を忘れない職場」「失敗を恐れない行動力」だと思っています。小池木材が160年170年180年190年そして200周年を迎える頃には、会社の形態は全く変わり、隣の敷地には小池木材本社跡の石碑がたっているかもしれない。それでも、世の中の変化を恐れる事無く、未来に心躍らせながら小池木材の新しい姿を構築していく所存でございます。皆さん、**向上心を持って人生を楽しくしながら、一緒に土台を積み上げて頂けるよう宜しくお願い申し上げます。**